

取引先に資金を 貸し付けた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：取引先の〇〇社に、お金を貸したって本当ですか？

先輩：ああ、コロナ禍で売上が激減して、運転資金の手当てが必要になったらしいよ。

新人さん：へえ、お金を貸すなんて銀行みたいですね。

先輩：もちろん資金融通することがうちの会社の本業ではないけれど、〇〇社とは先代の社長からの長いお付き合いだからね。

新人さん：そうなんですね。ところで、借りた〇〇社にとっては借金なのでしょうけど、うちにとっては貸付金でよいですか？

○解説

「貸付金」とは、取引先、子会社、関連会社、役員や従業員などに対して、金銭消費貸借契約および準消費貸借契約に基づいて、金銭を貸し付けた場合に生じる金銭

債権を処理する勘定科目です。回収期限が貸借対照表日の翌日から起算して1年以内の貸付金は「短期貸付金」として流動資産に、1年を超える貸付金は「長期貸付金」として固定資産に計上します。この区分の基準を、1年基準（ワンイヤールール）といいます。

貸付金に分割返済の定めがある場合、1年以内に返済が予定されている部分については、「長期貸付金」から「1年以内回収予定長期貸付金」に振り替えて流動資産に計上します。実務上は、期中は「長期貸付金」のままで、期末に振り替えることが多いです。なお、その金額が少額で、重要性に乏しい場合は、そのまま「長期貸付金」として固定資産に計上しておくこともできます。

役員などに対する一時的な資金融通等は「役員短期貸付金」として、子会社などへの一時的な運転資金の貸付け等は「子会社短期貸付金」として、他の貸付金とは区分表示するか、注記します。



ケース1 取引先に貸し付けた場合

×0年4月1日、取引先の〇〇社に3,000万円を貸し付け、毎年3月31日に1,000万円ずつ返済を受けることになった。なお、利率は3%で後払いとする。

【借方】 長期貸付金 30,000,000 / 【貸方】 普通預金 30,000,000

ケース2 返済を受けた場合

×1年3月31日（決算日）、ケース1の貸付金の返済額と利息が普通預金に振り込まれた。

【借方】 普通預金 10,900,000 / 【貸方】 長期貸付金 10,000,000
受取利息 900,000

ケース3 翌期1年以内に返済される長期貸付金を振り替える場合

1年以内に返済される長期貸付金を1年以内回収予定長期貸付金に振り替えた。

【借方】 1年以内回収予定長期貸付金 10,000,000 / 【貸方】 長期貸付金 10,000,000